

第 1435 回例会報告

平成27年11月12日(木)晴

会長挨拶

会長 御子柴文夫

国運をかけた挑戦の成功を願う

昨日11月11日朝9時35分三菱航空機株式会社
社が製造した日本製の国産ジェット旅客機が初飛行
を無事に成功させ心が湧きました。

日本は戦後1952年まで GHQ により航空機の
製造並びに開発を禁止されており 解禁された1
0年後の1962年にプロペラ旅客機 YS-11が製作
されました。

しかし 開発を禁止された期間を含め17年間
の空白期間のためか良い飛行機であったのに商
業では360億円の損失を出して1973年に製造
打ち切りとなりました。

ゼロ戦・隼・飛龍・雷電等々の戦前の飛行機の
評価を思うと寂しい限りでした。

今回初飛行した MRJ(三菱リジョーナルジェ
ット)は短距離輸送用ターボファン搭載航空機に分
類され近距離間輸送用小型旅客機として期待さ
れております。

同種類の旅客機はカナダ・ボンバルディアとブラ
ジル・エンブラエルが先発しており競争の激化
が見込まれます。

90席から100席・短い滑走路で可能・低騒音・
2000km～3000kmの航続距離・機体30t でマッ
ハ0.8で飛行して10t の荷物を低燃費で運ぶ・
等々の競争です。技術を結集して軽量化と高効

率エンジンを開発しており20%以上の燃費効率
を高めているそうです。

すでに407機の予約を受け2年後の2017年4
月頃量産1号機を ANA に納入する見込みと発表
されております。

開発に1500億円ほど使っており半額は政府の
開発支援金となっております。

1機42億円～53億円で販売されるとのことで
す。ぜひとも成功して欲しいものです。

名古屋空港隣接地に量産組立工場を建設中
ですから見学できる日を楽しみに待ちたい。

新たな物づくりに挑戦している方々を声援する
とともに 今後学んで挑戦する若者達を少しでも
応援する活動に携わって行きたいと思えます。

委員会報告

【国際奉仕委員会】

今回のセブ支援に関し85000円という多額の
カンパをいただき有難うございました。支援の詳
細については後日の例会で報告いたします。

また来週は担当例会で米山留学生の卓話です。
よろしくお願ひします。

私事ですがロータリーRLI に参加しています。3
回目終了すると修了証が出て会員になるそうで
す。

【国際奉仕委員会2】

ミンダナオ子供図書館財団活動を主宰している
松居友氏の講演会が、東京理科大で学生対象の
授業として開催されます。

頃出席報告

| | |
|------|-------|
| 会員数 | 40名 |
| 出席対象 | 38名 |
| 出席者数 | 29名 |
| 出席率 | 76.3% |
| 前回修正 | 87.2% |

■ニコニコBOX

| | |
|-----|----------|
| 2名 | 6,000円 |
| 累計 | 213,000円 |
| 目標額 | 60万円 |
| 達成率 | 35.5% |

■今週のことば

お祝いをいただき有難うありがとうございました。
岩村亀夫



関心・興味のあるかたは、是非ご参加ください。

日時:2015. 11. 16. (月曜日)am:10:40

第 1435 回例会

春宮・秋宮造営の秘密

講師 五味光一先生

担当青少奉仕委員会

その他報告

【岩村亀夫会員】

先日来、菊花展優勝に際し多くの方より沢山のお祝いの言葉をいただき恐縮しております。

私は健康のために菊づくりをしています。多くの菊づくりの方は健康を害して菊づくりに勤しんでいます。そんな私が優勝したのは色々運が良かったからです。ありがとうございました。



本日の3分間スピーチ

本日の三分間スピーチは、溝口幸二会員でした。

フランスのことわざにあるという「人生を3つのステージ」に分けて考え、自分の来し方を語っていただきました。

スピーチはぴったり3分で終わりその正確さにもびっくりしました。



本日の例会は、1級建築士でありながら諏訪市本町街づくりの中心メンバーであり、すまぢクラブの有力な会員である五味光一先生をお迎えしました。

先生の話はユニークで、ロータリークラブだけで聞くのはもったいなく、市民(町民)講座として企画しても良いと思われました。

本日の原稿は先生から寄せられたものです。



今から約235年前の安政8～9年に春宮と秋宮の幣拝殿と片拝殿が改築され、今もその姿をのぞむことが出来ます。これらの建物が諏訪の大隅流と立川流の大工が造営したことは皆さんもご存じのことと思います。

大隅流は代々高島藩の作事方大工であった伊藤儀左衛門の4番目の弟、長左衛門矩重(伊藤→村田→芝宮)を祖としています。一方、立川流の立川和四郎富棟は元々高島藩の作事方桶屋の塚原家の二男であった和四郎が、江戸の立川家で修業し諏訪に帰ってからの大工でした。実は先に秋宮の造営を立川流が受けており、これに激怒した大隅流の長左衛門が、兄の力も借りて春宮の造営を工費半額以下・一年の工期短縮で受けたのでした。

さて、両宮は平成20年から始まった改修工事を終え、平成24年に「重要文化財諏訪大社下社春宮幣拝殿他六棟保存修理報告書」が諏訪大社から発行されました。これらの工事は同じ図面で行われたと伝えられてきましたが、この報告書の図面を合成することでその違いがはっきりと見えてきました。

平面的には、片拝殿の奥行が秋宮の12尺に対して春宮は7.5尺と小さくなっているのが大きな違いです。それから最も重要なのは、春宮は幣拝殿をはさんで片拝殿が真っ直ぐにならんでいるのに

今月の結婚祝



今月の結婚祝いは対象8名のうち、岩村亀夫会員、小松孝弘会員、御子柴文夫会員、望月勉会員の4会員が出席しお祝いしました。

最も結婚してから長い岩村会員と短い望月会員の結婚歴の差は7倍以上でした。全員奥様への感謝の言葉を述べていましたが、奥様へはちゃんと言葉と態度で伝えましたか？

対して、秋宮は片拝殿が1度内側に折れています。たった1度(約10mで18cm)ではありますが、片拝殿の隅から見通すと解ります。

諏訪大社・下社
秋宮／春宮比較



立面的には、幣拝殿・片拝殿とも前庭レベルから最高の高さは揃っています。片拝殿は奥行が大きく違いますし、実際に建つレベルまでの高さが約65cm違ってはいますが、高さを揃える工夫がなされています。(どちらが工夫したのかは不明です。)最も重要なのは、幣拝殿は正面から見ると屋根の大きさは同じなのに柱間の幅が約36cm秋宮の方が小さくなっています。又、横から見ると柱間の幅は同じなのに屋根の出が約36cm秋宮の方が大きくなっています。つまり何処から見ても秋宮の屋根が大きく出ています。

この平面・立面の違いは一寸見ただけでは解らないことですが、春宮と秋宮をお参りするときに神楽殿の奥まで行き幣拝殿に正対した時に感じる違いは、これらの小さな違いがまとまって我々に与えていると考えています。秋宮の方が参拝者を包んでいるように感じます。

実は、立川和四郎は二男でしたが、長男が亡くなってしまい桶屋を継がなければならなかったのです。絵ばかり描いていたので13歳の時ほぼ勘当に近いかたちで江戸に出て、大丸屋呉服店に入ります。その一年後大丸の別荘があった木場の近くの堅川近くに住む、幕府御用大工の立川小兵衛富房の門を叩きます。和四郎はめきめきと上達して職養子を望まれますが、20歳の時諏訪に帰り大工を始めます。すぐに角間町の十王堂(現在は無い)を建てますが、大隅流の建築彫刻を見23歳で再度江戸に向かいます。今度は左甚五郎を祖とする宮彫師、小沢常足の門を叩きます。

再び諏訪に帰り茅野の白岩観音堂の建築で諏訪に名を馳せたのは30歳でした。秋宮の幣拝殿・片拝殿完成は36歳の時ですから、まだ若いですよ。

立川流は明治初めまでに、秋宮をきっかけに県内はもちろん京都から関東までの多くの仕事を残しています。特に愛知・静岡に多くを残していますが、和四郎が江戸で習った大工・宮彫技術だけでなく大丸呉服店での商人の心も含めた総合力＝マネジメント力が発揮されたと感じています。後々のことを考え、どうしても秋宮の仕事をしたかったのだらうと思います。

一方、大隅流の長左衛門は天才肌でした。江戸での毛利邸化粧の間の工事では、賄賂を渡さない長左衛門に対しての役人の低評価に腹をたて、床柱に釘で三度切付けさっさと宿に帰ってしまいました。役人は狼狽して夜のうちに柱を取り替えたそうです。その後、毛利家は長左衛門の仕事を気に入り80両で召し抱えたいとなりましたが、兄に相談すると許されず辞退したそうです。このように長左衛門は、立川流とは正反対の職人気質の塊のような人物でした。

立川流と大隅流は正反対の性格や家系ですが、良きライバルであり、両派があったからこそ多くの秀逸な建築彫刻が残っているものと思います。

時々、どちらが好きかと聞かれますが、見れば見る程知れば知る程分からなくなり、いつまで経っても両流のサポーター・ファンクラブでいそう。



白岩観音堂



大隅流・立川流諏訪地方寺社マップ